繋がつて

1 アボカドの心臓取つて春立ちぬ
2 髪の毛は誰かのもとにクロッカス
3 すれ違ふ人と目の合ふ弥生かな
4 逃ぐる子と追ひかくる子と風車
5 永き日の土に田舎が生えてくる
6 くろがねの櫛に梳かして海女の髪
7 御守の叶結びに走梅雨
8 草笛や瞼の裏の虹色に
9 熱帯魚ひとつ持ち手の長き傘
10 ずるずると晩夏を進む海星かな
11 目の端をじつとしてゐる通し鴨
12 パンケーキの段をはちみつ大西日
13 草の穂の端に学校が触れてをり
14 小鳥来る上半身の銅像に
15 昼月や朱塗りの屋根の繋がつて
16 虫聞いて綾糸のある暮らしかな
17 無花果に触るる子水に濡れてゐる
18 柚味噌のずるりと残る椀の壁
19 先生は辞めたいと言ふ烏瓜
20 霜柱踏んで鼻血の予感かな
21 六限は物理多めのブロッコリ
22 鼻歌の気づかれぬやう帰り花
23 風邪の子が足音聞いてをりにけり
24 短日や抱けば確かな猫の骨
25 階段の角は削れて冬の海

予感

1 背伸びしてぜんまい羽を伸ばしたる
2 前髪に明日の予感ライラック
3 未熟さのひとり見上ぐる朧月
4 春の海ふと心中のしてみたき
5 春愁や屈んで丸き膝の影
6 パンジーを母と植ゑたり白昼夢
7 マネキンに頭髪の無き薄暑かな
8 足首に何時のミサンガ星涼し
9 はるかなる人の声聞く木下闇
10 網越しにうさぎ寄りくる雲の峰
11 一声に水濁りけり牛蛙
12 赤蜻蛉行く先知れず追はれたる
13 耳鳴りの遠くでひとつ木の実落つ
14 教室の隅に集まる木の実かな
15 惑星の歪になりし木の実かな
16 フラスコの変はらぬ無色雁渡る
17 メルセンヌ数果てしなく冬銀河
18 冬北斗探して鼻先の光る
19 真四角の浴槽にゐる聖夜かな
20 我見つめたる寒鴉口開いて
21 繋いだ手白紙に戻す冬の水
22 初電車人々のヘッドフォンのいろ
23 初星や吹きくる風の灰まじり
24 ちはやふる強く払ひて歌留多会
25 待春や古き手すりに瘤あまた

目を閉ぢて

1 風鈴のにはかに鳴つて覚めにけり
2 七月の舌青くする駄菓子かな
3 どの椅子もざらついてをり海の家
4 サルビアやイヤホンつけて曲聴かず
5 かさなりてひとつのごとし蛞蝓
6 爽やかやりんご巻き取る象の鼻
7 鯖雲や旗に生まるる風の音
8 考ふるとき立ち止まる木賊かな
9 長き夜の時計に知らぬ機能あり
10 椋鳥や赤き庇のレストラン
11 いちじくの中の壊れてゐるやうな
12 オーボエかクラリネットか浮寝鳥
13 悉く雪の中なる無音かな
14 数へ日やタクシー止める左の手
15 人日の絵筆の持ち手にも絵の具
16 建売りの静かな昼や石蕗の花
17 火の中で枝折れるあり落葉焚く
18 先生と呼ぶ声に春来りけり
19 下萌やゆつくりと書く筆記体
20 春風やクラスに二人ゐる山田
21 図書室に春蚊を入れてしまひけり
22 永き日の海苔余りたる手巻き寿司
23 のどけしや視力検査に目を閉ぢて
24 ビー玉の中の曖昧春の月
25 何を掃くともなく掃いて春惜しむ

よあそび

1 春めいて食ひたいものを食へと云ふ
2 奥さんの名を店の名にシクラメン
3 交代でたこ焼を食ふ春の宵
4 けうちくたう好きだつた人が好きだつた
5 夕立の幾度も海叩きたる
6 浴衣の娘見つつコンビニ飯を食ふ
7 ペンライトで加速していく俺の夏
8 引いてきた白線に立ち晩夏光
9 読経の息継ぎ深く稲光
10 背伸びして指ほどけたる秋高し
11 犬ころのやうにボールや秋夕焼
12 激動の時代を葡萄ずうずうし
13 葡萄食ひ志望理由を搾りだす
14 ガレージを飛び出すやうに今日の月
15 川底に都の見ゆる良夜かな
16 東急線ハロウィンの香と思ひたる
17 たぷたぷと鍋に浮きたる牡蠣の腹
18 裏口からもどうぞの店や冬の暮
19 冬の日に瞳孔のきゆとちぢみをり
20 塗りたての屋根に真冬の大夕焼
21 寄鍋を囲み黙つてゐるもよし
22 落書の増えてゐる壁十二月
23 立漕ぎやリュックとオリオンを背負ひ
24 寒夜なり眼鏡はづして人を待つ
25 冬の暮排水溝より湯気出づる

もうすぐそこに

1 教会のはだに触れたる律の風
2 白桃やゆめうつつなる夢を食む
3 潮風に身体錆びゆく秋の海
4 十六夜や路上ライブを聴きに行く
5 制服につきたる皺や冬隣
6 凩に揺るる雨戸を引き出しぬ
7 絨毯の色の濃き場所薄き場所
8 蛍光灯白くぼやける湯冷めかな
9 豚汁の遠く匂へる初稽古
10 一面の市街地に入る冬の虹
11 風花や高嶺に伸ぶる電波塔
12 親子熊ゆるゆると梅探りけり
13 風光る山頂はもうすぐそこに
14 傷のある人下萌を見てゐたり
15 電線のたるみ大きく鳥交る
16 春愁スーツ一式小さくなり
17 大学に赤き講堂蝌蚪の水
18 花冷の細くなりたる鷹の目よ
19 麦熟るや顔を顰むる子供たち
20 大山蓮華ひらく花弁に影のこし
21 母の切る野菜の音や昼寝覚
22 夏の波飴のべたつき頬につき
23 ラベンダー待ちくたびれて眩しくて
24 白南風や身包み全て新しく
25 秘密基地ロープちぎれてをり残暑

桜道

1 春風に流れて掴む合格通知
2 風光る校門に響くシャッター音
3 金ボタン寝そべる影に春が立つ
4 桜ゴム色はにごれどちりぬるを
5 走れども無情に響くチャイムかな
6 新緑に響く歌声合唱コン
7 出席は足りてる二時の青葉闇
8 数学が白南風吹いて自習時間
9 涼風や終わり淋しい文化祭
10 体育祭ふと目で追うのは貴方の背
11 落ち騎馬の無念濡れシャツ後祭り
12 達成感橙包む秋の暮
13 オーディオに礼して序歌と律の風
14 秋陽に照る休み時間スマホ麻雀
15 外掃除身に染み渡る秋寒か
16 ザクザクザク落ち葉の絨毯通学路
17 若門はキンコンカンコン松もなし
18 キャラ弁を隠す手つきや冬浅し
19 悪問と不揃いバウム冬の月
20 生きにくい世や屋上のかまいたち
21 冬ざれのグランド鳩の序列かな
22 凍て風でジャージ伸ばすも堪えられぬ
23 寒月や肉まん片手に語らう夜
24 タイマーの音痴っぷりや雛あられ
25 桜道花片は涙によりそって

7

みる

1 雪解けで色が生まれる景色かな
2 風が吹く窓の隙から覗く春
3 花吹雪落つる涙に目隠しを
4 振り返り別れを告げる花明り
5 鯉のぼり童心懐い胸弾む
6 翻す赤ワンピースアマリリス
7 星眺め思い焦がれるアルタイル
8 見上げれば空満開の瑠璃菊（ストケシア）
9 我映る鏡の如く夏の川
10 「腕折れる」祭囃子のにぎやかさ
11 君と見た真夏の夜の大ダンゴ
12 潮風の熱き思い出目に染みる
13 十五夜と共に煌めく一等星
14 見渡すと紅葉広がる故郷よ
15 彩落つる午後の涼しさ寂しかな
16 足元に色ながら散る葉も我も
17 並木道秋のジュータン独り占め
18 立ち止まりカボチャ見極めカゴに入れ
19 風花よ空いっぱいにきらめいて
20 別々に空を見ている霜柱
21 輝くは氷柱に映る日の明かり
22 初雪や見渡す限り白一色
23 細雪降りゆく先は銀世界
24 窓の外雪に埋もれる君を見た
25 除夜の鐘煩悩討伐鳴り響く

8

暁

1 初東風や囲炉裏の炎ひやんひやんと
2 獅子舞の犬歯をそつと覗き見て
3 水引の硬し年玉ラストイヤー
4 巫女舞の袖ひるがへり鐘霞む
5 沈丁と風にふくらむパニエかな
6 桜貝握る小さき手由比ヶ浜
7 お揃ひのキーホルダーや花あしび
8 花酔ひやなんとなくその声が好き
9 サイネリアAll for oneの呪縛かな
10 夏の蝶非常ボタンの位置高し
11 背曲がりの目高や我に初潮きて
12 孑孑の集ふこの世は火宅なり
13 さくらんぼ片頬だけのえくぼかな
14 赤シート翳してモノクロの晩夏
15 秋晴にピエロの鼻の落ちてゐる
16 コスモスや君のイヤホン絡まつて
17 師匠の背に骨の浮かみて吾亦紅
18 夜学生冷えたオムライスをぺろり
19 曼珠沙華日記の語尾を変えてみむ
20 悪戯な目や林檎ほのかに酸つぱくて
21 キットカットのやはき凹みや冬うらら
22 山茶花やきつとこの道も正解
23 なめらかな「綺麗」の手話やクリスマス
24 寒紅に死人の頬の透きとほる
25 冬薔薇まつすぐ生きてきた赤よ

故郷

1 ハンカチや雲は千切れてより速く
2 貯水池にタイヤ痕ある暑さかな
3 竹皮を脱いできれいな一人道
4 埃つぽくて翡翠に会ひに行く
5 赤土の剥き出してゐるめろんかな
6 稲妻やしばらく猫の痩せてゐる
7 筆箱の落ちる音して秋出水
8 雲流れ十一月の集会所
9 鶏頭やジャムパンに種残りをり
10 ランタンのやうに弾けて秋の蝶
11 馬肥えて鎖に錆の群がれり
12 揚花火とほくに月の栄えをり
13 洗ひ場の盆の静かな良夜かな
14 颱風一過世界半分ずつ眠る
15 一頭のキリンを移す夜の秋
16 雨雲の黒さを濯ぐ芒かな
17 風花や魚を捌く手の匂ひ
18 秋草や故郷に廃刊の知らせ
19 クルトンの溶け入つてをり秋深し
20 一隻のごとく猪逃げにけり
21 芋煮会水流に湯気絡まつて
22 人参の髭一本の天仰ぐ
23 時として白さが見えるおでんかな
24 雪囲ひ犬の足跡点々と
25 大仏は静かに立って寒の水

色を重ねて

1 鳥雲に入りてあくびの軽さかな
2 森林は野原のつづき春の鷹
3 花過のカフェにちひさな水彩画
4 チューリップ花をゆるりと落としけり
5 フルートの音のくぐもり昼霞
6 サーカスの汽車の昏さや春の虹
7 指先に始まるピアノ柚子の花
8 鏡写しに海月の骨は融けてゆく
9 持ち上げて捻れきらざる蛇の衣
10 ラムネ瓶鳴らして歩く子どもかな
11 蝸牛雨を伸ばしてゆきにけり
12 草刈りのあと広々と鳥集まる
13 朝焼は高炉に鉄の溶けるころ
14 流星を山を大きくして待たむ
15 芋虫が草にふつくらはみ出して
16 秋澄んで目を目薬の浸す音
17 竹の春瓶に固まる塩すこし
18 知り合いの知り合いに似て葡萄かな
19 ザクロ落ち星もこぼれる暗闇に
20 はつふゆや電車のすうと地下に入る
21 耳たぶに淡き血流ふゆの蠅
22 封蝋の色を重ねて冬温き
23 孤独かもしれぬ氷の世界かな
24 歌留多飛びいつもの場所に嵌まりけり
25 福豆を投げることためらふ時間

あを

1 一息に剥がす瘡蓋夏休み
2 鍋肌のミルク泡立つ春近し
3 薄暑光スラックスから腱のぞき
4 発声に腹式呼吸淑気満つ
5 ルイ何世か忘れクリスマスの仕業
6 大の字の父子重なり合ふ昼寝
7 隣人の勤めを知らず松手入
8 古書店の隅のアンプや冬の雲
9 冬の蠅月謝袋の印の濃し
10 寒すずめ親子の集ふ太鼓橋
11 百舌鳥鳴くや通話ボタンをためらつて
12 飛行機の影仄青き夏の朝
13 密談のやうにままごとブロッコリ
14 馬刀堀りや被選挙権を持て余し
15 炬燵布団人物ピンの赤と青
16 地球儀に刻まるる海鵜来る
17 大風邪や返事するとき二重顎
18 ドーナツの穴を失ふ冬銀河
19 初鰹釣られて揺れぬ眼なり
20 遠雷や重き息寝台に満つ
21 花あざみ肺胞潰すコルセット
22 山葡萄活版版の文字かすれ
23 私有地の看板朽ちぬ螽斯
24 青き石足裏に当つ弥生尽
25 春塵やサーカス小屋の千秋楽

縮尺

1 閉寮の報せにソーダ水こぼす
2 活版の窪み冷たし夏の月
3 日傘差すおほきな羊歯の森のまへ
4 ランニングシューズの凹み夏木立
5 朝凪やクレーンは島吊るしたる
6 朝顔のいろいろ母の庭小さし
7 数列の公差ゼロなり天の川
8 おむすびのつやつや草の花揺るる
9 秋祭りをんなばかりでゐて楽し
10 ぽてぽてと足跡残し秋彼岸
11 家系図に知らぬ名ばかり野分立つ
12 冬隣すぐに答えを探す癖
13 アンテナの短き家や冬の凪
14 最近のマスクは牙を隠すため
15 膝掛のほつれ撫でつつレイトショー
16 苦しいが喉元にある大枯野
17 カニ鍋の爪を取り合ふ三姉妹
18 留紺のシャッター重しオリオン座
19 監視カメラの真新しきや今朝の春
20 春塵やお笑いコンビ解散す
21 ドーナツをタワーのごとく積んで春
22 猫知るやonよりinの暖かさ
23 ひらがなの重さくらべて桜草
24 梨の花自分を変えたいんだつて
25 大地図に我の縮尺藤の花

浮遊

1 白飯の歯にひんやりと冬の星
2 冬燈一気に買つてしまふ癖
3 わたし今5ミリ浮いてる小春風
4 オカリナの砕けるように寒椿
5 水洟地球は楕円体だから
6 冬の川羽ばたけぬ蚕の迷い
7 旧姓のまち針使ふ春の暮
8 フェルマーのための余白や土匂ふ
9 ぶらんこや錆のにおひの家路かな
10 この指に止まれ燕が巣に帰り
11 春光は大粒でありインターフォン
12 蝌蚪育つちゃんからさんへ変わる頃
13 モナリザの分け目変わらず春疾風
14 春驟雨エンドロールから逃亡
15 ケチャップの後味つんと水海月
16 紫陽花や空に触れてしまつたの
17 菜箸の長さ違つてレモン水
18 筆圧に反比例して青蛙
19 旱星県道を往くトラクター
20 連弾の腕の交差や律の風
21 爆撃の夜に芋虫の這つている
22 連なつてモアイの粗さ海猫帰る
23 地虫鳴く死後硬直の解ける頃
24 秋深しピアノの底にある硬さ
25 ギフトラッピングしますか錦秋を

フリスビー

1 長閑さや地面に着ぐるみの頭
2 新品の動物図鑑風光る
3 蒲公英の茎から水が出て帰る
4 ギターケースに投ぐる百円春の宵
5 街頭の演説に飽く桜餅
6 春の月切られて軽き足の爪
7 流木に買物袋かけて夏
8 熱帯魚泳げば義理の父訛る
9 スペインの赤きマラカス揚羽蝶
10 伯母遠く短き文と夏薊
11 膝の裏掻くほど入道雲高し
12 採点が間違つてゐて胡瓜食ふ
13 フリスビーがゆつくり落ちて飛蝗かな
14 味噌汁に豆腐ばかりを秋涼し
15 朝刊のバイク走つて曼珠沙華
16 ドーナツが秋風を吸ひ込んでゐる
17 名月や来客用の菓子を食ふ
18 稲刈の村に引戸の駐在所
19 大福をでつぷりと置く色葉かな
20 卵液が固まつてゆく冬の朝
21 柊の花やジャージの全部青
22 山茶花のいたづらに散る宵の中
23 冬ざれを手押車の進みけり
24 自販機の売り切れランプ寒波来る
25 マネキンは立つてゐるだけ冬の暮

辿り着く

1 薄氷の原稿用紙ほど薄し
2 ひとまずは完成の絵に木の芽風
3 流動食に匙の傷透く遅春かな
4 けん玉に糸の巻きつく春の昼
5 スイートピー屈めば風にさはらるる
6 ふらここのほかにものなき野なりけり
7 このまちは骨埋めるまち黒揚羽
8 研究所の扉の開いてゐて夏帽子
9 本棚の吹き抜けてゐる夏館
10 執筆の背に夏風のかよひたる
11 トングよりあられ落とせり避暑の宿
12 土産屋に船を待ちをり扇風機
13 露草摘まれれば茎のただ迷子
14 ではまた。で終はる日記や休暇明
15 おしぼりのビニール脆しばつたんこ
16 肉切つて肉の寄り添ふ良夜かな
17 露が乗るほどに睫毛の長きなり
18 展示用ソファーに九月果てにけり
19 冬ざれや煙のかたち線で描く
20 気球みな電球に似て神無月
21 鯉の群れ去つて冬晴余りをり
22 冬すみれ本を重さで選りてをり
23 手紙けふ届きさうなる冬青空
24 白息を離るる息と添ふ息と
25 いちまいの絵に辿り着く旅始

にほひ

1 行き場なきベルマーク捨つ春休み
2 細道に梅の香かをる雨上がり
3 匂い忘れスミレ絞るバターケーキ
4 声援をふくみてふくらむ雲の峰
5 かげろふと水筒を振る高き音
6 透明を空に留めし蜘蛛の糸
7 豌豆と鞘俳句は並ばざる
8 帰路つかめ孤高のクレーン夏の夕
9 掘割に照り返す日や大西日
10 爽涼やキックオフの笛響いて
11 秋深し雨の音聞く車中泊
12 虫すだく結果発表五分前
13 秋桜手遊び唄の子の爪よ
14 秋風や肩にこぼるるプリンヘア
15 赤蜻蛉走者過ぎ行く運動場
16 柿紅葉その色に皆染められて
17 朝寒や一寸足らずの袖伸ばし
18 風邪心地うすぼんやりと書庫の底
19 イブの夜盛んに光る製鉄所
20 悴みの緩みて熱を帯びる生
21 ペアリフトしばらく雪山にふたり
22 休日の予定決めきれぬ湯冷め
23 熱さのみ分かる白粥風邪籠
24 氷柱伸ぶ人狼暗躍する一夜
25 鐘の音の長さを競ふ去年今年

幸せの形

1 朝寝、こまぎれの荒波
2 天空の母語を忘れて春の風
3 いい画鋲はシャボン玉に好かれる
4 永き日を寝ているヤギと立っているヤギ
5 春の宵僕のライオン好きになる
6 ドラゴンの目覚めはよくて青嵐
7 人類の花一匁描く夏
8 密室で二口飲まれたソーダ水
9 夏風邪や君の言葉に棲んでみたい
10 盛夏かなわがままの力で生きる
11 いなくなれ揚羽蝶頬にミートソース
12 疲れたので花火打ち上げています
13 見せかけの世界に団栗が一つ
14 fgp平成明朝体w3が好きそうな顔
15 正直な私の呪文消すと秋
16 爽やかや我のものみな我のもの
17 コスモスを折る老いるのが怖いから
18 カタルシスささくれがきらきらそよぐ
19 アイドルだって万引きしてる神無月
20 祝われないもの初雪の誕生日は
21 くだらない幸せがいる冬かもめ
22 口わるい君にも鯛焼をあげる
23 にんじんを吊るしてまなうらはぴんく
24 こちらつまらないものですが春隣
25 来世では半分こしようパピコ割ろう

セロリにマヨネーズ

1 行先は土星列車の旅始
2 作業場につばくろの二羽来て戻る
3 蘖や膝にガーゼの絆創膏
4 優しさや餡透けてゐるさくら餅
5 朧月まだまだ知らぬ君のこと
6 縁談を断る返事春の水
7 春の風邪擬音優しき絵本かな
8 居眠りの祖母を金魚が見てをりぬ
9 冷麦をゆつくりすする午後三時
10 六月の夜明けの奥にひかりかな
11 廃線のトンネル狭し草いきれ
12 思ひ出の沈むプールの深さかな
13 背の順になる水筒やルリビタキ
14 泣いてゐる花野小さく揺れてゐる
15 終点の声伸びやかに残る蝉
16 洗顔の水ひんやりと秋澄めり
17 セーターが小さき種をつけてくる
18 電線にたまる鴉や雪催
19 街の果て手袋落とす家出の子
20 食卓にひとりセロリにマヨネーズ
21 ＩＨコンロの土鍋寒の入
22 冬萌の朝や背筋をぴと伸ばす
23 かじかんだ手にかじかんだ手を繋ぐ
24 目を擦る妹と見る初日の出
25 数の子に命の数多満ちてをり

思惟の風

1 糸くずの混じる旅銭いぬふぐり
2 春泥に綴ぢられて草よろこべる
3 入り口の狭き鞄屋鳥交る
4 風車選り庭先の風を選り
5 大窓に蝶のはためく真昼かな
6 今日のそら今日の雲のみ啄木忌
7 カーネーション舞台化粧の冷たくて
8 夏帽のゴムの胸まで垂れてをり
9 ハンカチを干すや海ある方の窓
10 薔薇咲くや明治維新の匂ひする
11 滑走路全方位水平線暑
12 箱眼鏡押すや脱兎の如く跳ね
13 合掌の十指に秋の澄みにけり
14 小屋失せぬ花野に鳥を置き去りに
15 鶏頭をはかなく流す思惟の風
16 うすら硬きテレホンカード星月夜
17 厨房の窓のレールの夜露かな
18 月光や鰭のゆらめくチンアナゴ
19 模型艦の艦艇紅し秋刀魚食ふ
20 帰り花うずまく辨のゆるみけり
21 橋の名をたちまち忘れ冬紅葉
22 凩やぽつぽつと眼を思ひ出す
23 メロンパン粗目冷たし芝枯るる
24 水槽の魚と目の合ふ湯ざめかな
25 モネの絵を虚子に見せたし枯芒

いい子じゃないから

1 さようならはるのきたないえびふらい
2 春昼のテトリス詰みだ罪だだめだ
3 留針の細さ小ささかざぐるま
4 レジャーシートに石の感覚夕ざくら
5 生まれつき右利きのロボ春の風
6 幼子にハグ受験子にキス幽霊にラブ
7 ポケットに鈴初夏の木にすわる
8 後になって笑えるはなしパセリ食む
9 気になる子と目が合うぼくは青嵐
10 クーラーを消した後つけ森で死のう
11 背泳ぎの耳を浸してみてしずか
12 Re:今夜の素足のご予定について
13 光ぱらぱらと灯ってきて祭り
14 秋になって海老と衣にある隙間
15 蟷螂に相槌を打たなきゃいけない
16 スラム街林檎一つを争って
17 お幸せに！（ピーナッツバターの絵文字）
18 真っ昼間の団地の中で落ち葉踏む
19 二日月自分が推しを生かしてる
20 シリウスの光集めて道の駅
21 一月のプレパラートは滑らかに
22 歪なマフラー彼は父親なんだろう
23 つめたいなあ、きみんちのAI　つめたいなあ
24 春を待たない　わたしいい子じゃないから
25 言うか言わないか納豆混ぜる音

温もり

1 一人っ子同盟結ぶ日永かな
2 新しき家族を迎えひな祭り
3 小説の百ページ目に咲く菫
4 夜勤明けの母の寝顔や八重桜
5 遠足の列崩したる仔犬かな
6 箱庭のなかに温もりありにけり
7 子どもらの突撃を受け風薫る
8 硝子戸に忍者のごとく守宮かな
9 秒針の音青天へ雨乞を
10 彼の世から音の来たるや風鈴の
11 ケチャップのメッセージある夜食かな
12 土産なる柚餅子を厚く分けにけり
13 糸薄土手を駆けたる三輪車
14 どんぐりをわざと転がす土曜かな
15 君の目に秋の色ある帰り道
16 早梅がゴール地点の持久走
17 おでん種求めて友に会いにけり
18 冬の朝マイナス2℃が目に刺さる
19 セーターのほつれを直す午後三時
20 こたつねこしゅべつをこえてとろけあう
21 跳ねていた子は船を漕ぐ大晦日
22 大皿のますます増えて年来る
23 いつもより大人しくなる春着の子
24 私の名探して捲る年賀状
25 憧れの光となりて卒業す

遠雷

1 異世界に連れて行かるるしゃぼん玉
2 パステルのカセットデッキ風光る
3 春暁や軽トラックのエンジン音
4 教室の中の机は春を待ち
5 見納めの門扉の下に鼓草
6 大朝寝しんねうをなぞれる寝癖
7 ハイビスカス正論言われてしまつた
8 夏の海キャンディーの泡透けてをり
9 水中花連弾はずむ大ホール
10 アイスクリーム砂に染みて静寂
11 天球に捕らはれてをり星月夜
12 草の実やテニスコートの浅き溝
13 胡桃割るからくり箱はがらんだう
14 対岸に街灯ひとつ虫の闇
15 絞り切りかぼすの種どつさりの夜
16 バケツ残し大地流るる雪達磨
17 冬ぬくしタレの艶めく鶏南蛮
18 青深きマフラー港町の朝
19 冬めける祖父の書斎のオルゴール
20 河豚めしや引き戸を通る波の音
21 寸胴のラーメン屋台冬の星
22 霜菊やデッサン室の広きこと
23 油絵の重き匂ひや年の暮
24 日向ぼこ世の青空を独り占め
25 唇にちいさきほくろ薺売

ピアニッシモ

1 春のピアノ埃に翅のあるごとく
2 風車そぞろに揺るる占ひ屋
3 古巣あり墓場の土のやはらかく
4 豆の花からからの眼のよりどころ
5 終点の桜を仰ぐ車掌かな
6 寝転ぶや春風を欲る鼻の奥
7 アロワナの背筋伸びたる花の宿
8 蘭鋳の瘤のいろ抜け禿めく
9 梅干の少しく白む昼寝覚
10 父のにほひか我のにほひか木下闇
11 牛蛙鳴きをる森のがらんだう
12 すれ違ふ会釈の深き登山かな
13 秋暑し醒めて悪夢のわだかまり
14 稲妻やこころの非常口が開き
15 握手して影も握手や夕紅葉
16 龍淵に公民館の駒磨く
17 敬老の日の洗剤のうす黄色
18 顔文字で作れさうなる鰯雲
19 ひかがみの昏さに冬の立ちにけり
20 手袋を脱いで手のひら濡れてをり
21 山眠るピアニッシモを太く描き
22 ジョギングを終へ腿裏に冬の蠅
23 賀状書く散髪まへの吾の写真
24 淑気満つ背丈のそろふ三世代
25 ローファーに早梅の香の透きとほる

24

水の変容

1 桜散る水面に映るこの思い
2 青嵐染みゆく香り滲む夢
3 常夏にしぶきを浴びてハワイ模様
4 遠泳つづくしょっぱくても変若水（おちみず）
5 傘開く梅雨の奏でに癒しあり
6 流水と陽炎昇る風の歌
7 夏霞透明のまま君を待つ
8 蓮の花水で離れるわたしたち
9 ホタル飛ぶ水月空華（すいげつくうげ）夢のよう
10 〈ＡＳＭＲ（えいえすえむあーる）／川音〉夜店へ
11 皓々と山に流れる天の川
12 月見酒君の笑顔に酔いしれる
13 十六夜に欠ける盃死ぬ李白
14 湖に拡がる紅葉誘われて
15 秋烏水に染まりし空の色
16 水鞠の反照するは冬銀河
17 凍滝のしたたりたるや青い海
18 霧氷林吐息で飾る無垢な君
19 冬ざれや寂しくさせる散歩道
20 書き留めて懐かしき街氷柱より
21 春水に沈む光や影の夢
22 雪融けて潤う草地光るツヤ
23 手をとられ陽だまりの中氷解
24 雪解けに羊水の夢を見ている
25 雪催い静けさ包む白世界